

沼津市

地形概況

北部から愛鷹火山地とその山麓緩斜面、後背湿地の浮島低地、狩野川河口から西にのびる千本砂丘や砂堆地、市街地がのる黄瀬川扇状地と狩野川低地、香貫山から静浦山地とつづく。南部は大瀬崎に至る井田火山・達磨火山北斜面が駿河湾に面する。

地質概況

北部は愛鷹火山の玄武岩・安山岩質溶岩と山麓は火山灰が厚い。沿岸砂礫州との間には軟弱な地層が形成された狩野川沖積地の南に香貫山と西浦山地、南部には井田火山や達磨火山の玄武岩質溶岩と地質は多様である。石英安山岩の貫入もみられる。

気象概況

年平均気温が 15.3°Cで、月平均最高気温 30.6°C、月最低が-0.5°Cと県内では温度較差が大きい。年平均降水量は 2,040mm(三島)と比較的小さく、6月から9月にかけて全降水量の44%が降る。年平均日照時間数が県内でも多く、1年の54%が晴れの日である。

災害事例 地震

- 1996年3月7日(平成8年)山梨県東部の地震 M=5.8
山梨県東部が震源で、河口湖で震度5を記録した。三島市で震度4を記録している。沼津市では黄瀬川橋付設の水道管が破裂、民間アパートの高架水槽の漏水があった。
- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかったが、当地では被害僅少で震度4程度の揺れであった。
- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆北部を中心に大きな被害があった。当地の被害は沼津市で死者1人、負傷者7人住家全潰10戸、半潰29戸、原町で負傷者4人、半潰1戸、内浦村で半潰8戸、西浦村で半潰16戸、大平村で死者1人、半潰45戸、浮島村で半壊4戸、静浦村で死者1人、負傷者10人、全潰8戸、半壊19戸、大岡村で半潰20戸、金岡村で全潰3戸、半潰15戸、鷹根村で全潰2戸、半潰5戸、合計で死者1人、負傷者21人、全壊23戸、半潰162戸となっている。震度は5であった。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震で沼津市で1人の死者が出たほか、家屋全潰沼津町で2戸(0.04%)、内浦村で1戸(0.3%)、金岡村で8戸(1.1%)、大岡村で2戸(0.4%)、静浦村で3戸(0.3%)、大平村で1戸(0.4%)、鷹根村で3戸(0.5%)、浮島村で3戸(0.5%)の被害があった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
震度は久料6~7、沼津6、原・香貫・三津・木負は5~6、沢田・三津は5と推定されている。沼津城内では、御殿・蔵など全半潰し、城下の旅籠屋町では、まれに残った家も傾いていた。また道路に地割れを生じた。領分村方で4,939戸の潰家が出

た。小林では民家 11 戸大地より 5~6 丈震り込み、死者 11 人を出した。大岡村では所々より水湧出 4~5 尺噴上げたという。原では石鳥居・石灯・籠は悉く倒れたけれど、潰れは 4~5 戸のみで済んだ。

- 1782 年 8 月 23 日 (天明 2 年) M=7.0
小田原から箱根を中心として被害を生じた地震。沼津付近では 2 日後の 25 日の余震で潰家が出ている。
- 1707 年 10 月 28 日 (宝永 4 年) 宝永地震 M=8.4
沼津・原は過半数潰家となり、道路・橋など所々大破した。沼津より東は被害はほとんどなかった。震度は原で 6~7 程度と推定されている。
- 1589 年 3 月 21 日 (天正 17 年) M=6.7
興国寺城・沼津城の塀など破壊し、民家も多く破損した。
- 1498 年 9 月 20 日 (明応 7 年) 明応地震 M=8.2~8.4
江梨で震度 5 程度と推定されている。

災害事例 津波

- 1946 年 12 月 21 日 (昭和 21 年) 南海地震津波
内浦で津波の高さ 0.2m。
- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19) 東南海地震津波
津波の高さは沼津で 1m、狩野川河口で 1.5m、立保では海がざわざわした程度でほとんどわからなかった。
- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震津波
内浦湾南岸の津波の高さは江梨・久料・足保などで 2~3m と低いが、湾奥の重須・長浜・三津・多比・江ノ浦などでは 5~7m と高かった。また北岸の狩野川河口や原などでは 2~3m 程度と低くなっている。したがって被害も湾奥の集落で大きく 70~80%の家が流された所もあった。江梨から我入道までの集落全体で総戸数 1,074 戸のうち 485 戸が流失している。また 5 人+若干の死者も生じている。津波は地震のゆれがおさまる頃すぐ来たことが古記録からわかっている。
- 1707 年 10 月 28 日 (宝永 4 年) 宝永地震津波
津波の高さは内浦で 5.5~6m、原 4m と推定されている。三津浜では、家々の床上 2~3 尺浸水したという。
- 1498 年 9 月 20 日 (明応 7 年) 明応地震津波
江梨の廃寺, 万行寺に当時のいわれがあることから津波の高さは江梨で 4~5m と推定される。

災害事例 高潮

- 1680 年 9 月 28 日 (延宝 8 年)
原・吉原、潰家溺死夥しかったとの記録がある。

災害事例 台風

- 1974年7月7日(昭和49年)台風8号(七夕豪雨)
大雨が平野部に集中し、全県下に被害があったが、当市では死者1人、全壊5戸、半壊8戸、床上浸水1,612戸、床下浸水7,161戸、田畑冠水1,523.3ha、道路決壊10箇所、堤防決壊5箇所、山崩134箇所被害が出た。
- 1959年8月13日(昭和34年)台風7号
中部以東で被害大きく、当市では全壊45戸、半壊122戸、床上浸水538戸、床下浸水927戸の被害があった。
- 1938年6月29日(昭和13年)
県中・東部・伊豆地方で豪雨があった。6月28日~7月5日の雨量は787mmで沼津の最大日雨量は332mm(29日)に達した。
- 1932年11月14日(昭和7年)
箱根山で14日18時最大瞬間風速55.3m/sを観測した。湯ヶ島での雨量は227mmに達した。沼津での被害は負傷者1人、全壊22戸、半壊100戸である。
- 1924年9月16日(大正13年)
県東部・伊豆半島で被害が生じた。石廊崎での最大風速50.4m/sで、雨量は伊豆中央部に集中した。沼津署管内での被害は床上浸水576戸、床下浸水764戸、冠水田畑160ha、決壊道路11.3km、橋198m、堤防36mなどである。
- 1922年8月23日(大正11年)
特に中・東部で被害が大きかった。沼津の日雨量は23日190mm、25日142mmで、26日までに総雨量334mmに達した。沼津署管内での被害は、床上浸水216戸、床下浸水429戸、冠水田畑126ha、橋4箇所であった。
- 1920年9月30日(大正9年)
伊豆地方、特に田方郡で被害が大きかった。沼津での最大日雨量は153.5mmであった。沼津の被害は床上浸水767戸、床下浸水718戸、冠水田畑388haである。
- 1914年8月12日(大正3年)
12~13日暴風雨で雨量は安倍川流域・東部・伊豆地方で多く、沼津の日雨量12日に208mmを観測した。また最大瞬間風速は沼津で24.4m/sである。
- 1910年8月10日(明治43)
全県下特に中・西部で台風の被害をうけた。沼津で9日の雨量は243mmに達し、梨ノ木堤防が決壊して大洪水となった。沼津での浸水家屋は752戸、対岸の楊原は610戸である。

災害事例 旱魃

- 1965(昭和40年)
全般に降水量は平年の1/2しかなく県下は旱魃となった。沼津市原で8月の雨日数は4日で平年より10.2日少なかった。
- 1626(寛永3年)

大旱魃。田畑作皆無。